

笑顔のひろば

とりで障害者協働支援ネットワーク

第94号

1面：一般避難所における障害者対応勉強会／第78回定例会開催案内 2面：視覚障害者体験授業視察 3面：あいサポーターキッズ（取手小・永山小） 4面：ネットワーク参加団体からのお知らせ（チャレンジの広場・いばらキッズのWA）／連絡先／会員募集



一般避難所における障害者対応勉強会



2025年12月17日（水）

取手市の職員さんたちを対象に一般避難所において障害者の対応についてお話をしました。以下がその内容です。

以前、避難所訓練をした際の大きな問題点は受付の際にそれぞれの障害者の情報収集にとっても手間取ったことです。その時の経験を踏まえて、どのような対応が必要かを話しました。

1. 受付の工夫

- 一般避難者と障害避難者と窓口を分ける（見た目で分かりにくい障害者もいる）
- 避難行動要支援者台帳提出者は情報内容の確認（情報のデータベース化）
- 台帳の未提出の場合は、障害の種類、必要な支援、環境（トイレ、バリアフリー、気温、プライバシー）技術、医療行為などの情報収集
- 障害別のエリアに案内する
- エリアに移動して情報提供書に記入してもらう



2. 環境

- 障害別にエリアでの環境を工夫する（移動、トイレ、気温、静寂、照明）
 - 現状の情報収集困難者（視覚、聴覚障害者）にはスタッフが寄り添う
 - 付き添いがいる場合は協力を求める
 - 一般避難者に障害者対応への理解を求める
- それらのことを念頭に置き、マニュアルを作成し、関わる職員さんに理解してもらうことが大事だと思っています。素案を作り訓練を重ねて問題点を整理して作成してください。個別支援については、我々が作った障害者のための防災マニュアルが、災害時の障害者への配慮のバイブルだと思っています、その内容を理解すれば応用が効きます。（宮脇 記）

第78回定例会開催のご案内

ネットワーク会員・市担当部・社会福祉協議会・市議会議員・民生委員・その他関係機関の皆様のご出席をお願いします。会員以外の障害者支援団体・個人の方もお気軽にご参加ください。定例会は、4月、7月、10月、1月に開催します。

- 日時 2026年（令和8年）4月21日（火）10:00～12:00
- 場所 取手市福祉交流センター 多目的ホール
- 議題 行政からの報告／ネットワークからの報告／情報交換 その他

お礼とお願い

令和7年度は事業計画に基づいて進められました。これも皆様方のご支援とご協力があった成果となります。心より感謝申し上げます。令和8年度も「とりで障害者協働支援ネットワーク」活動にご理解を頂きましてご支援とご協力を心よりお待ちしております。会費納入よろしくお願い申し上げます。（武藤 記）

視覚障害者体験授業視察

主催：柏市心身障害者福祉連絡協議会

12月18日（木） 柏市立酒井根小学校

柏市心身障害者福祉連絡協議会(略称：柏障連)は、柏市視覚障害者協会・柏市聴覚障害者協会・柏市手をつなぐ育成会・柏市肢体不自由児(者)を育てる会・柏市精神障害者家族会よつば会・柏市自閉症協会で構成され、市民公益活動をしている福祉団体です。学校にて、障害理解の授業を10年以上行っておられます。

今回ご縁があって、柏市立酒井根小学校での授業を見学させていただきました。

内容は3時間の授業の中で、3つのテーマで行われました。

- 1、視覚体験(体育館にて) アイマスク・ガイドヘルプ体験
- 2、交流 視覚障害者のお話 質問交流タイム コント
- 3、レク 柏障連紹介と今日のテーマについて ゲーム(フルーツバスケット)

振り返りそれぞれの内容について報告します。

1 視覚体験(体育館にて) 体育館では視覚障害者の行動を模擬して体験されました。

2人1組になって、障害当事者モデルはアイマスクをして白状をもって行動します。もう一人は介助者になってモデルの行動を介助します。まず白状を頼りに一人でマットの上を前方の端っこまで歩きます。介助者はモデルに靴を履くのを手伝います。次は傾きのあるビート板上に誘導し傾きなどを教えます。



その後、テーブル上にある缶の飲み物やシャンプーなどを手の感覚による識別体験や パイロンのジグザグコース、点字ブロックコース、壁伝いなど白状を使って歩いてゴールという、かなり長いコースをアイマスクをして体験しました。

子供たちは、とても怖かったという感想が多かったです。

(宮脇 記)

2 交流 視覚障害者のお話 質問交流タイム コント

●視覚障害者のお話●

<25歳で突然見えなくなった方>

朝起きたら目が見えなくなっていた。最初は見えていないということがわからなかった。(夜なんだ)と思っていた。鳥が鳴いていて(朝なんだ)と、目が見えないんだとわかった。近くの姉に電話しようにも昔の黒電話でダイヤルの番号も見えないし、手探りで回しても時間がかかると切れてしまいなかなか電話できなかった。

<緑内障で見えなくなった方>

霧の中にいるみたい。ガイドヘルパーと一緒に外に出掛ける。40歳ころになったら目の検査をしてくださいね。

<3歳半から盲学校で学んだ方>

お母様からのお話 生まれてから脳の手術を6回、曇りガラスを6枚重ねて見るのと同じ視力で白と黒はわかる。耳はとても良い。ものについては触ったり想像したりして理解する。大きいものは(電車や飛行機)想像できない。太陽という物体はわからないが、娘はあったかいと言う。盲学校時代の先生にガイドしてもらって3キロのロードレースに出場している。



●質問交流タイム●

Q 目が見えないのになぜ眼鏡をかけているの？

A 外を一人で歩いている時に木の枝が出ていたりするので目を保護するためです。

ちなみにキャップ帽をかぶっているのは、頭を守るのもあるけれど、電柱にぶつかった

ときに直接顔をぶつけないためです。

Q お風呂はどうするの？

A 家のお風呂は問題なく入れる。旅行の時は知っている人と一緒に入る。温泉のシャンプーは印がない時がある。わからないときは人に聞く。

Q 災害が起きたら？

A 家にいる。家の中の安全な場所にいるようにする。近所の方と仲良くしているので声をかけにきてくれた。

●コント●

視覚障害者が初めて行くスーパーの店員さんとのやり取りのコント

店員：ここは階段ですよ⇒上りの階段か下りの階段かを伝える

店員：ここがトイレです⇒洋式か和式か、トイレットペーパーの位置、水を流すのはボタンなのか、レバーなのか、手を洗う場所は、自動なのか手動なのかなど情報を伝える。子どもたちも真剣に聞いていました。構成もよくできていてすばらしいなと思いました。自分自身大変勉強になりました。

(美田 記)

3 レクレーションを通して障害を体験

レクの内容はフルーツバスケットとなっており、はて？どんな授業が行われるのか興味深々で見学。こどもたちは円を作って着席して進行の柏障連のスタッフの指示を待ちます。最初は誕生月ごとにグループ分けをしてレクを進めていきます。次にアイマスクを着けた生徒とそうでない生徒が「フルーツバスケット！」の掛け声に着席するための椅子を目掛け動き出します。ここで、アイマスクをした生徒は戸惑います。その生徒をどう誘導するかがこのレクのポイント



なんだと思いました。うまく座れた子、最後まで座れない子を「右！右！右！」「左！左！左！」「もう少し前！」「そこそこ！」と誘導の声かけをします。

なるほどなーと思いました。次に生徒たちにゲームのルールを決めてもらうのですが、これがまたユニークな発想が飛び出します。「全員がアイマスクを着ける」の発想には進行役のスタッフも初めてのことだったそうで、

こどもたちの発想は無限大なんだと思いました。

スタッフの方からは「全て正解なんです」との声掛けがあり、肯定しながらこどもたちの想像力を膨らませていく進行はなかなかできないことだと思いました。

ゲームを終えての感想は、「アイマスクは怖かった。」「わかっている場所でも怖かった」「案内されても怖かった」等々。

フルーツバスケットというレクを通して障害を理解する納得の授業でした。

(阿部 記)

あいサポーターキッズ研修授業見学



取手市が行っている障害者理解のための「あいサポーター研修事業」の一環として、小・中学生向けの「あいサポーターキッズ研修」授業が2025年11月26日（水）に取手小学校、12月10日（水）に永山小学校の5年生を対象に取手市障害福祉課の職員が講師になり、45分枠で行いました。教材は1枚のプリントに描かれている街の中の様々な場面から困っている人や状況を10か所見つけて発表しあう内容です。思っていたよりあっという間に見つけてくれて、元気一杯発表しあっていました。障害者がどんなことに困っていて、何が障壁になっているかを学び、気づききっかけになったと思います。

(阿部 記)

ネットワーク参加団体・会員からのお知らせ

《チャレンジの広場》

2月22日(日)に今年最初のチャレンジの広場を開催しました。参加人数は15名でした。競技内容は、定番のポッチャと風船バレーでした。ポッチャは経験者が多く、レベルの高い試合で笑顔があふれていました。後半は、1年ぶりに風船バレーを行いました。チーム内でパスを回し、うまくボールが相手コートにかえると歓声とハイタッチをしていました。

最後に、参加、ご協力ありがとうございました。(勝山 記)



《いばらキッズのWA》



いばらキッズのWAは、きこえない・きこえにくい子どもたちとその家族が、安心して集い、つながれる場をつくる団体です。手話やデフスポーツ体験、交流会などを通して、子どもたちが自分らしく過ごし、仲間と出会えるきっかけを大切にしています。また、保護者同士が悩みや情報を共有できる場づくりや、きこえる人ときこえにくい人が自然に関わり合える地域づくりを目指しています。参加・見学はどなたでも歓迎です。ボランティアも随時募集しています。



【イベント情報】

手話フェス in 茨城

2026年3月7日(土) 13:00~16:00

(入場無料)

会場：取手市福祉交流センター 多目的ホール

内容：デフリンピック選手トークセッション、
デフスポーツ体験ほか

担当：栗田 (080-5439-8296)

(栗田 記)

寄付

柏市心身障害者福祉連絡協議会より 5,000円



とりで障害者協働支援ネットワーク会報
「笑顔のひろば」第94号

□発行：2026年(令和8年)3月1日

□発行所：とりで障害者協働支援ネットワーク

□発行者：染野和成

□編集者：鈴木澄利 ネットワーク編集員

□連絡先：取手市本郷5-4-21

E-mail: toride.ssknet@gmail.com

HP: <http://ss192693.stars.ne.jp/index.htm>

《会員募集》

ネットワークの趣旨に賛同する皆様の参加、ご協力をお願いします。随時入会を受け入れておりますのでお申し出ください。

寄付金についてもよろしくをお願いします。

○会費(年額)

(1)正会員 団体1口 1,000円 1口以上
個人1口 500円 1口以上

(2)賛助会員(団体・個人)
1口 1,000円 1口以上

■会費・賛助会費・寄付金の振込先■

口座番号 常陽銀行 取手支店

普通 1887469

口座名義 障害者協働支援ネットワーク

代表 染野 和成